



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/15 (月)	+ 400	+ 78,000	+ 78,400	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人) 年金定時払い	社債等買入 ▲200 国債補充供給 +2,900		日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 米: 鉱工業生産 (5月) 欧: ラガルドECB総裁の講演 : ユーロ圏鉱工業生産 (4月)
6/16 (火)	トン	+ 4,000	+ 4,000				日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: FOMC (1日目)
6/17 (水)	トン	+ 4,000	+ 4,000				日: 貿易収支 (5月) 米: FOMC (2日目) : 小売売上高 (5月) 欧: ユーロ圏CPI (5月)
6/18 (木)	トン	+ 5,000	+ 5,000		貸出増加 ▲70,200		
6/19 (金)	▲ 1,000	+ 4,000	+ 3,000		貸出増加 ▲46,300		日: CPI (5月) : 日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月27日・28日開催分)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,800億円増加の437兆5,900億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げ、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、12日は437兆5,000億円 (速報) で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W~3W物0.732%~1.200%のレンジ、1M~3M物1.020%~1.210%のレンジで出が見られた。
来週の予定は、国内では15日・16日に日銀金融政策決定会合の開催、19日にCPI (5月) の公表、海外では15日にラガルドECB総裁の講演、16日・17日にFOMCの開催、17日にユーロ圏CPI (5月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.978
1M	0.95 ~ 1.15
2M	1.00 ~ 1.20
3M	1.05 ~ 1.30
6M	1.20 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~185回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	—
CP 3M (a-1+)	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は1兆9,240億円で、週間償還額の2兆4,970億円を下回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,808億円から、6月11日時点で24兆6,702億円へと減少した。発行市場では、小売業・ガス業・建設業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台、3ヶ月物で1.1%台から1.3%程度と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆4,000億円となっている。発行市場は、一部発行体による四半期末の有利子負債圧縮が進むことから、ショートターム物を中心とした落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、6月15・16日の政策決定会合を控え、引き続き水準を慎重に見極める展開となるだろう。

<TDB>

9日の6M (第1386回債) の入札は、最高落札利回り0.9901% (前回債0.9297%)、平均落札利回り0.9821% (前回債0.9197%) となった。
12日の3M (第1387回債) の入札は、最高落札利回り0.9387% (前回債0.9327%)、平均落札利回り0.9294% (前回債0.9242%) となった。
来週の入札は18日に1Y、19日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。